意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
1	第1章 1	進路支援は重要ですが、都市部の魅力が優秀な人材の県外流出を招いています。進学・就職先選択の背景には教育や医療環境、多様なライフスタイル、給与水準の違いが絡みます。一方、生徒の進路選択は自由であるべきで、強制力を伴う誘導は慎重に考える必要があります。公的機関の誘導が選択の自由を制限する懸念もあり、公平で自由な環境を守ることが重要です。特定の進路を推奨する姿勢は避け、生徒の権利と意思を尊重した支援が求められます。	1	今後も生徒一人一人の多様な学びの実現に役立ていくための教育環境の整備等について、全県的な視野で検討を進めて参ります。	C <small>趣旨同一</small>
2	第1章 1	「一定規模の人数が必要」との記述は、少人数指導を行う特別支援学校における社会性・協調性の育成を否定するものと受け取られかねず、不適切ではないでしょうか。仮に「少人数でも工夫次第で育成可能」との反論があるならば、「一定規模の人数」が必須であるとの前提自体が揺らぎます。この記述の背後に人件費や設備費削減の意図があるのであれば、それを明示すべきです。不可能な計画の遂行は教職員の無理な労働を助長し、結果として教育の質を損ねます。説明を避けるのではなく、正面から課題を提示することが必要と考えます。	1	新たな県立高等学校再編計画（平成28年度～令和7年度）においては、望ましい学級規模を4～6学級と定めていましたが、後期計画においては、各地域における学びの選択肢を確保するため、一定の入学者がいる小規模校を含め、地域の学校を維持することとしております。	D <small>参考</small>
3	第1章 2	現行再編計画のまとめとしていますが、県南地区工業高校について触れていません。	1	ブロックを越えた統合により設置することから、後期計画期間中に設置場所や統合時期、教育内容等の検討を進めているところです。	F <small>その他</small>
4	第2章	高等学校教育の基本的な考え方に掲げる教育の機会の保障については、少人数の学校だからこそ通えるという生徒の存在も大事な視点であると思われる。	14	県内全ての地域で少子化が加速する中、地域の高等学校の在り方を考えるに当たり、教育の機会の保障と教育の質の保証を図りつつ、それぞれの生徒が進学したいと思える学校づくり、特色化・魅力化を進めて参ります。	C <small>趣旨同一</small>

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
5	第2章	人口減少に伴う学校統廃合は避けられず、他県からの生徒募集も日本全体にプラスとは言えない中、地方教育には保守的な面が見受けられる。岩手では小中高の連携強化や革新的な学校設立、職業体験によるライフプラン形成支援が求められる。また、地域の魅力を活かした教育の一体化が可能性を秘めている。学習格差解消のため塾に代わる仕組みや、主要市町村以外への支援強化も必要だ。県や政府と連携しつつ、教育費を守り地方教育のリーダーシップを確立する取り組みを期待しています。	1	長期ビジョンにおいては、今後の本県における高等学校教育の基本的な考え方として、5つの柱を掲げ、各県立高校の役割や特色等に応じた環境の構築に取り組むことが適切であると捉えおり、今後も、広く御意見を伺いながら取り組んで参ります。	D _{参考}
6	第2章	岩手の人材育成では、大学進学率の向上だけを追求するのではなく、生涯岩手に住む人や将来的に戻ってくる人を重視すべきです。地元で活躍する人を育てるためには、長期的なビジョンが必要です。また、少子化対策に加え、県立高校でどのような人間像を育成するかを考えるべきです。岩手の勤勉な気風を活かして未来に希望をもたらす教育が重要で、数値目標ではなく、生徒の人格形成に重点を置くべきだと思います。	1	長期ビジョンの今後の本県における高等学校教育の基本的な考え方の5つの柱の一つに、「地域や地域産業を担う人材の育成に向けた教育環境の構築に取り組む」を掲げており、この考え方を大切に取り組んで参ります。	C _{趣旨同一}
7	第3章 1	今後も、県立高校の魅力化・特色化の推進を期待します。	3	生徒の学習意欲を喚起し、一人一人の可能性や能力を最大限に伸長するため、高校の特色化・魅力化を推進して参ります。	C _{趣旨同一}
8	第3章 1	コミュニティスクールは学校審議会の延長からまだ抜け出せていないように思われます。もっと、地域住民の活用や連携を学校教育に活かし、学校を地域で支えるという仕組みや意識をもっと育てていかないと、学校の負担だけが増えていくので、市町村や県の教育委員会の連携や地域組織団体の連携を本気に取り組まないと、名ばかりの運営協議会で終わってしまう気がしています。	1	学校が特色化・魅力化を進めるに当たり、地元自治体や企業、商工会、大学や研究機関等の関係団体及び個人との連携・協働は、大切であると理解しております。御意見を今後のより良い連携に活かして参ります。	D _{参考}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
9	第3章 1	部活動をどう考えるか。これまで「魅力化」といわれると、部活動の占める話題が大きかったと思います。しかし、今回は全く話題になっていません。部活動の地域移行は中学校だけの話ではないと思います。それでも部活動で高校を選択している中学生もたくさんいます。部活動は「教育の機会の保障」には当たらないのでしょうか。高校の部活動をどうするのか明確に示す必要があると思われます。地域移行ということになれば、多くの中学生は私学に流れると思います。	1	部活動については、教育の場で重要な役割を果たしていると考えますが、地域移行の影響や具体的な方向性については様々な見解があります。高校選択や教育の機会との関連性も含め、地域のニーズや児童生徒の意見を十分に考慮し、広い視点で具体的な対応策について検討して参ります。	D _{参考}
10	第3章 2	理科や社会において義務教育の既習事項をSTEAM教育に関連付けて、教科等横断的な学習の推進を普通科高校には期待する。	1	学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のために、教科等横断的な学習を充実していく必要があることから、探究的な学び、文理横断的な学びの充実に取り組んで参ります。	C _{趣旨同一}
11	第3章 2	普通科目の表現を共通科目と変更すべきである。	1	学習指導要領も共通科目と表記しておりました。御意見を踏まえ、普通科目という表現を共通科目に修正いたします。	B _{一部反映}
12	第3章 3 (1)	産業に関する専門教育を大切にしてほしい。	4	地域産業を担う人材の育成や課題の解決に向け、必要に応じて知事部局と連携しながら、地域や産業界と学校との連携・協働の推進に取り組んで参ります。	C _{趣旨同一}
13	第3章 3 (1)	生徒の学科別進路希望と募集定員の乖離については、小中学校でのキャリア教育が不足しているのではないか。	1	学科については、産業振興の方向性や、地域が必要とする産業の人材育成を見据えた学科編制や学びの在り方について、国の動向も注視しながら検討し、取り組んで参ります。	D _{参考}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
14	第3章 4	将来、生徒の減少が学級減そして最終的には学校の統廃合という流れは避けられないのだと思います。統廃合で志望する学校、学科が遠方になってしまうと、通学の時間的負担が増えて、課外活動などに悪影響があると思いました。専門科が学科の統合により、総合的な学科としてまとまってしまうことがありますが、広く浅く学ぶことが、進路の裾が広がることにもつながるのだらうと思いました。我が国は他国と比べてITが遅れているとも聞きます。将来のIT、情報技術者の育成も課題の一つだと感じています。	1	地域の産業構造やニーズを踏まえた学科構成としながら、より良い教育環境の整備を図るため、国の動向も注視しながら、学びの在り方等について検討し、取り組んで参ります。	D _{参考}
15	第3章 5	定時制・通信制高校のビジョンについて、定時制・通信制高校の機能強化に取り組むとあり、また、通信制高校の設置について、生徒のニーズの変化等を踏まえ、既存の定時制高校に併設する等、検討するとあるがとても良いと思う。多様な生徒がいるので、学びの選択肢が増えることは良い。	6	定時制・通信制高校の入学者数の推移や国の動向等を注視するとともに、不登校や教育上特別な支援を必要とする生徒の増加等に伴う定時制・通信制高校に求められる役割の変化や、全日制高校の再編整備の動きも考慮しながら、定時制・通信制高校の機能強化等に取り組んで参ります。	C _{趣旨同一}
16	第4章 1	少子化は避けて通れず、今ある学校をそのまま残すのは不可能だと考える。ただし、急激に進めすぎると地元住民からの反発も大きく、子ども達も動揺すると思われるので、将来を見通して計画的に統合を進めて欲しい。	9	地域における学びの機会を保障するため、学校規模の大小に関わらず、各校が特色・魅力ある教育を展開し、生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことのできる環境を構築できるよう、関係する方々と丁寧な協議を重ね計画的に進めて参ります。	C _{趣旨同一}
17	第4章 1	今般の盛岡南高校と不来方高校の統合は非常に大きな動きであり、これから先10年20年先を見たときには、このような一定の規模を持つ高校同士の統合が必ず必要になってくると思われる。	3	学校規模の大小に関わらず、各校が特色・魅力ある教育活動を展開し、生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことのできる環境を構築するため、次期県立高等学校再編計画においても、慎重に検討して参ります。	C _{趣旨同一}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
18	第4章 1	盛岡管内の定員数を減らし、1学年1学級の学校はなくしてもよいのではないか。	2	「学びの質や多様性の確保」と「学びの機会の保障」の観点から、普通高校、専門高校等それぞれに求められる役割を踏まえ、どの地域にどのような規模で学校を配置することが適当か、慎重に検討して参ります。	D _{参考}
19	第4章 2	学校の最低規模を1学年2学級としつつも、1学年1学級の特例校設置を検討していることを評価します。引き続き現行計画の「1学級校も含めた各地域の学校をできる限り維持すること」が継続されるよう期待します。	6	次期県立高等学校再編計画の策定においては、現行計画の趣旨を踏まえながら、現在の社会状況等を勘案し慎重に検討して参ります。	C _{趣旨同一}
20	第4章 2	少子化に伴う入学者数減少への対応として、1学級校の募集停止基準(2年連続20人以下)の見直しが求められています。「いわて留学」による入学者増加の可能性を考慮しつつ、地域や高校の意見を反映した柔軟な運用が重要です。また、小規模校の在り方については各自治体と協議し、地元高校の存続や平等な進学機会を確保する体制が必要とされています。充実した教育環境の維持を目指し、中学生が安心して進学を志せる仕組みが求められています。	4	本県の広大な県土という地理的な条件や、地域の実情、適切な教育の質の確保や県立高校が担う役割の多様化、少子化の状況等を勘案しながら、慎重に取り組んで参ります。	D _{参考}
21	第4章 2	小規模校の教育上特別な支援を必要とする生徒への対応が増加している傾向にある現状は、支援を要する生徒から小規模校が必要とされていることととらえます。	3	小規模校における教育の充実に当たり、特別支援学校等との連携・協働等を検討しながら、生徒一人一人に応じた適切な指導及び必要な支援を行えるように取り組んで参ります。	C _{趣旨同一}
22	第4章 2	少子化が進み小規模校が増えてくると、小規模校では教員の数を確保できないことが懸念される。そうすると学校の中で様々な教科、特に専門高校での教科の設定が難しくなるのではないか。	2	将来的な生徒数の減少の状況や、教育の機会の保障と質の保証の観点を踏まえた小規模校における教育条件の改善について、国の動向を注視しながら検討し、取り組んで参ります。	D _{参考}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
23	第4章 2	現在、多くの高校で定員割れが発生していることから、40人定員にこだわらず、学校ごとに定員を減らし少人数クラスを導入することで、きめ細かな指導を行い魅力を高めることが提案されています。また、35人や30人学級への定員見直しの必要性が指摘されており、生徒一人ひとりに向き合った教育を実現するための改善が求められています。少子化対策の一環として、柔軟な定員設定についての議論が必要です。	1	1学級の定員については、少人数学級の導入とそれに伴う教職員の配置に係る経費負担について、国に要望を行っており、今後も継続して参ります。	D _{参考}
24	第4章 3	通学に関わっては、親の負担が大きくなっている中、さらに広いエリアになることで親の仕事への影響も懸念されることから、そうした部分も踏まえた検討を行う必要があるのではないかと。	2	「学びの質や多様性の確保」と「学びの機会の保障」の観点から、普通高校、専門高校等それぞれに求められる役割を踏まえたうえで、どの地域にどのような規模で学校を配置することが適当か、慎重に検討して参ります。	D _{参考}
25	第4章 3	コロナ禍以降、地域公共交通の機能が低下している現状を踏まえると、統合計画における「交通網の発達」を前提とする考え方に疑問があります。また、交通網が整備されているとしても、高校生が実際に利用可能な交通手段が限られる点や、地区割の広域化の必要性が明確でない点が問題視されています。さらに、専門学科や総合学科の広域再編が進んでも、通学可能な範囲に限られ、所在地周辺の生徒しか利用できないのではないかと懸念が挙げられています。	2	高等学校の配置を検討するには、多様な学びのニーズや生徒数減少への対応、人口の偏在や広大な県土を有する本県の実情、公共交通機関や道路交通網の整備状況、遠隔教育の可能性など、様々な要素を勘案しながら慎重に進めて参ります。	D _{参考}
26	第4章 3	「県立高等学校の在り方～長期ビジョン～」では、交通利便性や産業振興を考慮し、久慈と二戸を統合した県北地区を基本単位とする地区割が提案されています。しかし、現行の公共交通機関では生徒の通学時間が大幅に増加し、費用負担や生活全体への影響が懸念されます。また、専門学科の広域再編は地域密着型教育や地元との連携を困難にし、若者世代の流出が地域衰退を加速させる可能性があります。地域の声を反映し、持続可能な教育環境の構築を求めます。	2	現在の9ブロックを新たに6地区とし、二戸ブロックと久慈ブロックを県北地区としてまとめた経緯として、義務教育の地区割に合わせ、これまで以上に義務教育との接続を図る必要性等を考慮したことがあります。どの地域にどのような学校を配置することが適当か、地域等の意見を伺いながら慎重に検討して参ります。	D _{参考}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
27	第4章 4	地区割の変更は理解できるが、通学区域で遠野が気仙釜石に含まれるのは問題ないのか。	2	遠野は、旧宮守地区は花巻方面に通いやすく、釜石寄りの地区は釜石方面に通いやすく、進学の実績もあります。大きく8学区としていますが、遠野地区については両方にまたがる形にしております。遠野地区に限らず、他の地域にも同じような場所があり、生徒の進学先に対応しております。	F _{その他}
28	第4章 4	「地区割」を変更する意図や、通学区域との違いがわかりにくいため、わかりやすい説明をお願いします。	1	これまでの9ブロックは昭和40年代の旧広域生活圏に基づくものです。現在の県の行政単位としては、広域振興圏が産業振興の観点から4圏域で構成されているほか、教育に関しては6教育事務所で構成されています。今般の交通網の発達等による生徒の通学に係る利便性の向上の観点や、これまで以上に義務教育との接続を図る必要性等を考慮し、県立高校の配置に関する地区割の基本単位を「地区」とし、新たに6地区と決めました。	D _{参考}
29	第4章 4	通学区域(学区)の撤廃等を視野に入れながら見直しをしてもらいたい。	7	学区の撤廃については、都市部では多くの生徒が集まる一方、人口が少ない地域においては、逆に人口流出を加速させ、地域の学校で学びたいという生徒の意向が損なわれることも考えられることから、様々な視点で慎重に検討する必要があるものと認識しております。	D _{参考}
30	第4章 4	通学区域について、学区廃止に対する懸念は長期ビジョン最終案に記載のとおりです。学区は維持する必要があります。	1	今後も中学校卒業予定者数の減少が見込まれ、将来的に、学区内に普通科高校の複数配置が困難となることも想定されることから、より広域的な地域単位での学校配置も視野に、学区の在り方について慎重に検討する必要があると認識しております。	C _{趣旨同一}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
31	第4章 4	子どもの数が減ることを受け、学区外の定員を段階的に緩和することを望みます。子どもが望む教育環境の提供の観点からは、学区の設定は必要であるが、学区外からの定員を段階的に増やすことで、競争による資質の向上に寄与すると考えます。	1	長期ビジョンにおいては、学区の在り方について「次期県立高等学校再編計画における高校配置を踏まえた上で検討する」としております。	D _{参考}
32	第4章 5	公共交通機関の減便が進む中、学校統合に伴う通学支援の具体的な計画が求められています。バス路線が減少する状況を踏まえ、通学手段自体の維持を視野に入れた支援策が重要です。交通費補助だけでなく、公共交通機関の存続や地域特性に応じた柔軟な対応を含めた次期計画の検討が必要とされています。特に盛岡市以外の地域では、持続可能な通学環境を整えるための包括的な取り組みが求められています。	4	将来的な生徒数の減少や、広大な県土を有する本県の通学事情等を考慮し、学校統合を行う場合で、かつ、通学が困難となる場合には、地元市町村と連携した通学支援等の在り方について検討して参ります。	D _{参考}
33	第4章 5	今後、寮などの整備を含めた通学支援があればありがたいと思う。	2	現在、寄宿舎が設置されている高校は、盛岡農業、盛岡工業、水沢農業、岩泉の4校となっております。また、中山間部の生徒数確保に課題のある高校が所在する市町村の一部においては、地域の高校の存続や、ふるさと振興の観点から、地元高校と連携した「いわて留学」の実施等で、居住環境の整備等を行っております。将来的な生徒数の減少により、寮の整備が必要となる場合も視野に、通学支援の在り方について検討して参ります。	D _{参考}
34	第4章 5	通学支援をすれば地域から学校がなくなってもいいとは思わないと思う。	1	統合等による通学支援等に係る状況は地域によって個々に異なることから、地域の意見等を伺いながら、個別に丁寧に検討して参ります。	D _{参考}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
35	第5章 1	今後、学びの機会の確保のために遠隔教育の推進・拡充に期待する。	5	中山間地等に所在する小規模校の生徒が履修できる教科・科目等の種類の増加、生徒の興味関心や進路希望に基づく多様な学習ニーズに対応するため、実施要件の弾力化等、国の動向を注視するとともに、遠隔教育や学校間連携のメリット・デメリットを踏まえながら、遠隔教育の普及・拡大について検討し、取り組んで参ります。	C <small>趣旨同一</small>
36	第5章 1	遠隔教育推進においては、学校の主体性が失われる可能性が懸念されます。準備や連携にかかる労力や費用対効果、教員の業務負担軽減が不透明であり、対面授業の方が学習効果や集中力に優れている点からも課題が多いとされています。県教委の十分な支援が求められます。	8	限られた教員数の中で、配信環境の整備等を踏まえた上で、本県における遠隔教育の在り方については、国や他県の動向も参考にしながら引き続き課題を分析し、対応して参ります。	D <small>参考</small>
37	第5章 2	不登校生徒等、教育上特別な支援を必要とする生徒達の数は変わらず、今後も減少することは予想できない状況にある。教育上特別な支援を必要とする生徒の学びの場、機会の確保が必要になってくると思う。	7	多くの高校に教育上特別な支援を必要とする生徒等が在籍していることから、高校と特別支援学校との連携を深める等、生徒への対応や、よりインクルーシブな教育環境の在り方について検討し、取り組んで参ります。	C <small>趣旨同一</small>
38	第5章 2	県内の在住外国人が増加し令和6年6月末現在で、10,644人と過去最高になっています。今後も、外国人労働者の増加が見込まれ、家族滞在等により児童生徒の増加が見込まれます。県立高校においては、現在、10校で13名の外国籍の生徒がおり、日本語指導や進路指導等の対応が求められていると思います。また、県立高校入学者選抜等における配慮なども求められてきますので、外国人生徒への対応等について記述が求められるのではないかと思います。	2	<u>岩手県外国人児童生徒等教育方針(令和6年3月策定)に基づき、外国人生徒等に対する日本語教育を含めた学校教育全般にわたる支援を検討し、取り組む。</u> と加筆いたします。	A <small>全部反映</small>

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見 件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
39	第5章 3	今年、地域探究科を設置した大槌高等学校の取組をモデルとして、普通科改革に基づく新学科の設置について積極的に展開してほしい。	2	新たな学科における教育課程においては、学校設定教科・科目や総合的な探究の時間を各年次にわたって体系的に開設することなどが求められており、大槌高校の取組をモデルとして今後の推移を検証し、他校への展開を検討し、取り組んで参ります。	C <small>趣旨同一</small>
40	第5章 5	単位制の導入は進学に関わる大きな魅力である。保護者の多くが望んでいることは、生徒がスキルアップして社会に対応できるようになって欲しいということであり、様々な制度を活用して魅力ある県立学校を目指していただきたい。	3	単位制導入により、生徒の多様な進路希望や学習ニーズに対応した指導体制の一層の充実を図ることができるよう取り組んで参ります。	C <small>趣旨同一</small>
41	第5章 5	単位制導入は進学指導の充実や生徒の社会適応力向上を目指した魅力化の一環とされています。保護者からはスキルアップを望む声が高く、魅力ある学校づくりが求められています。一方で、導入内容や計画の具体性に欠ける点が指摘されており、どの高校で導入するのか明確な説明と次期計画での具体的な方向性の提示が必要です。これらを踏まえた単位制導入を期待します。	2	習熟度別授業の実施や生徒の多様な進路希望または学習ニーズに対応した学校設定科目の開設、大学をはじめとした学校外での学修の単位認定制度の活用等、特色ある教育課程を編成しながら、個に応じた指導の充実を図り、生徒の学習意欲や学力の向上に繋がるように、周知も含め、丁寧に取り組んで参ります。	D <small>参考</small>
42	第5章 5	単位制の導入は、大学進学が目的ではなく、進学後のキャリア形成を見据えた記述であることが望ましいと考えます。	1	大学等への進学指導に重点を置いた全日制普通高校において、生徒の多様な進路希望や、学習ニーズを踏まえ、 <u>大学卒業後のキャリア形成を見据えた指導体制</u> の一層の充実に向け、単位制の導入について検討し、取り組む。と、下線部を修正いたしました。	B <small>一部反映</small>

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見 件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
43	第5章 6	「県政課題等に対応した人材育成の取組」については、「医系等分野」は医者に特化したものではないとのことから、医系のほかにも具体的な例を示してもよいのではないか。	2	県政課題に対応した人材の育成に向け、 <u>医系や科学系分野等の専門職</u> を目指すコースや探究的な学び、文理横断的な学びに取り組むコースなど、学力向上に資するとともに特色あるコースの設置について検討し、取り組む。と、下線部を修正いたしました。	B _{一部反映}
44	第5章 6	最近は学力の高い生徒が私立高校に進学しているという話をよく聞く。私立高校についても特色を出して取り組んでいるわけなので、県立高校についても、高校の棲み分けをしながら難関大学へ進学できるような学力向上に重点的に取り組む学校を打ち出してもよいのではないか。	3	県教育委員会では、いわて進学支援ネットワーク事業や保健福祉部、医療局との連携による岩手メディカルプログラムの実施等により、学力向上に取り組んで参りました。今後、地域の児童生徒の志望動向や保護者、地域のニーズ、地域の中学校卒業予定者数の推移等、様々な観点から分析しながら、医系進学コース等の設置に向けて検討を進めて参ります。	D _{参考}
45	第5章 6	県政課題に対応した人材の育成について、岩手県にとっては農業分野に係る人材の育成も大事な分野であり、県政課題の中でも重要な課題である。	1	「ビジョン」において専門職を目指すコースの設置に係る象徴的なものとして、「医系や科学系分野等」と記載いたしました。農業分野も含め、多様な進路に対応する人材の育成に取り組んで参ります。	C _{趣旨同一}
46	第5章 7	併設型中高一貫校の新たな設置を望む。	7	中高一貫教育校の設置の可能性については、中学校卒業予定者数の推移や、各地区の義務教育への影響等を十分見極める必要があり、今後、広くご意見を伺いながら、慎重に検討して参ります。	D _{参考}
47	第5章 7	連携型中高一貫教育は、入試を簡便化することによって地元に残す意図があったと思うが、地元の中学生も減少し、そのような時代は過ぎたと思われる。連携型の在り方を再び考える段階にあると感じている。	1	連携型中高一貫教育については、連携中学校から連携校校への進学状況や今後の中学校卒業予定者数の推移等を考慮のうえ、今後の在り方について、検討して参ります。	C _{趣旨同一}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
48	第5章 7	引き続き併設中での「先取り」は行わず、内進生・外進生混合型の学級編成が必要です。	1	これまで、新しいタイプの中高一貫教育校、すなわち、中等教育学校の導入や中高一貫教育校の市町村立への移行に関する事等、また、現行の中高一貫教育校の先取り教育や学級編制等、特色のある教育の在り方について様々な意見を頂戴しており、引き続き慎重に検討して参ります。	D _{参考}
49	第5章 8	いわて留学は地域の活性化に大きく貢献しており、ビジョンに記載されている内容についてはぜひ取り組んでいただきたい。また、スポーツ留学や外国人留学生の受け入れ等いわて留学の取組を拡大してもいいのではないかな。	8	「いわて留学」は、生徒による地域の歴史、文化の理解促進や地域産業との連携・協働、伝統芸能の活性化や継承が図られるなど、将来的な関係人口の創出や増大が期待されるものであり、本県の人口戦略としても重要であることから、引き続き、市町村等との連携を図りながら、「いわて留学」の在り方も含め、検討して参ります。	C _{趣旨同一}
50	第5章 8	「いわて留学」の推進には、地元自治体の負担を考慮し、県による財政支援の拡充が求められています。さらに、独自の取り組みを展開し、留学の魅力を高める必要があります。他県の事例を参考に、専任課の設置や県内高校の連携体制強化を図り、魅力発信の仕組みを導入することで、持続可能な体制と効果的な留学推進となることを期待しています。	5	県教育委員会では、これまでの成果や課題を踏まえつつ、「いわて留学」のより一層の推進を図るため、令和7年度から新たに、県外留学に知見を有する民間団体との協働により、受け入れ校や地元自治体と入学希望者とのマッチング機会の充実や、生徒が不安なく学校生活や日常生活を送ることができるよう、受け入れ校や地元自治体に対して助言等支援をすることとしています。	D _{参考}
51	その他	進路指導の充実や教職員の働きやすい環境づくりが重要視されています。定時退勤等が可能な就業環境を整えることで、教育の質を向上させることが期待されています。また、地域協働では偏りや行き過ぎを防ぐ仕組みが必要です。進学校の魅力化や小規模校の支援においても、過度な負担を避ける形で進めるべきです。支援を要する生徒への対応には教員配置の強化が不可欠であり、教職員が授業準備に専念できる体制づくりが生徒の学力向上に繋がると思います。	13	次期県立高等学校再編計画策定に当たって、様々な御意見を頂戴しながら、意見交換を重ね、十分に意見を伺いながら、教職員に過度な負担がないように準備して参ります。	D _{参考}

意見検討結果一覧表

(案名：県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～についての意見募集)

番号	意見箇所	意見	類似意見件数(件)	検討結果(県の考え方)	決定への反映状況
52	その他	県民説明会での意見交換については、とても貴重な機会であり、参加人数が少ないのは非常にもったいない。マスコミへの周知だけでなく、当事者である中学校の保護者等から意見を聴くためにも、中学校に開催を案内するなど、周知方法を工夫すべき。	2	令和7年度には、次期県立高等学校再編計画策定に当たり、地域検討会議などを実施いたします。ご指摘いただいた点を踏まえ、教育事務所等を通じて中学校の保護者等への周知や岩手県HP等による案内などを進めて参ります。	D _{参考}
53	その他	個別の高校及び地域等に対する方向性及び具体的な提案等のパブリック・コメント	143	今回のパブリック・コメントにお寄せいただいた個別の高校及び地域等に対する方向性及び具体的な御提案は、次期県立高等学校再編計画策定の参考とさせていただきます。	D _{参考}